

令和7年度 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画策定業務

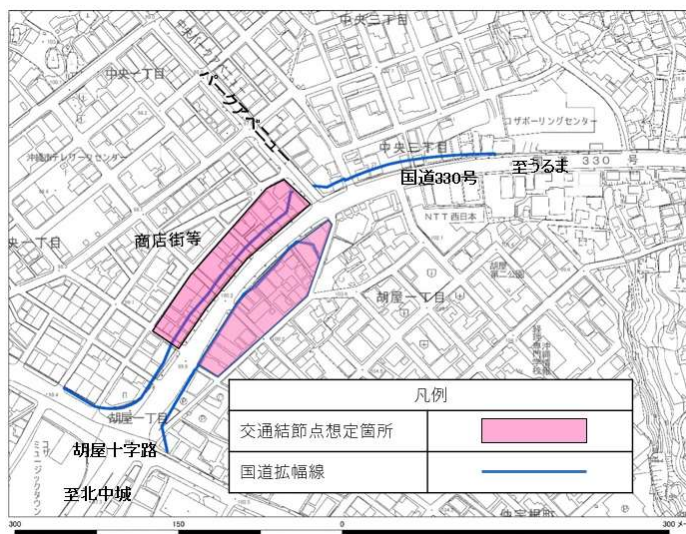
1.業務の目的

- 本業務では、地域住民及び関係権利者等の合意形成や機運醸成を継続しながら、基本構想で位置づけた施策の具体化を図り、「沖縄市交通拠点まちづくり基本計画」としてとりまとめた。



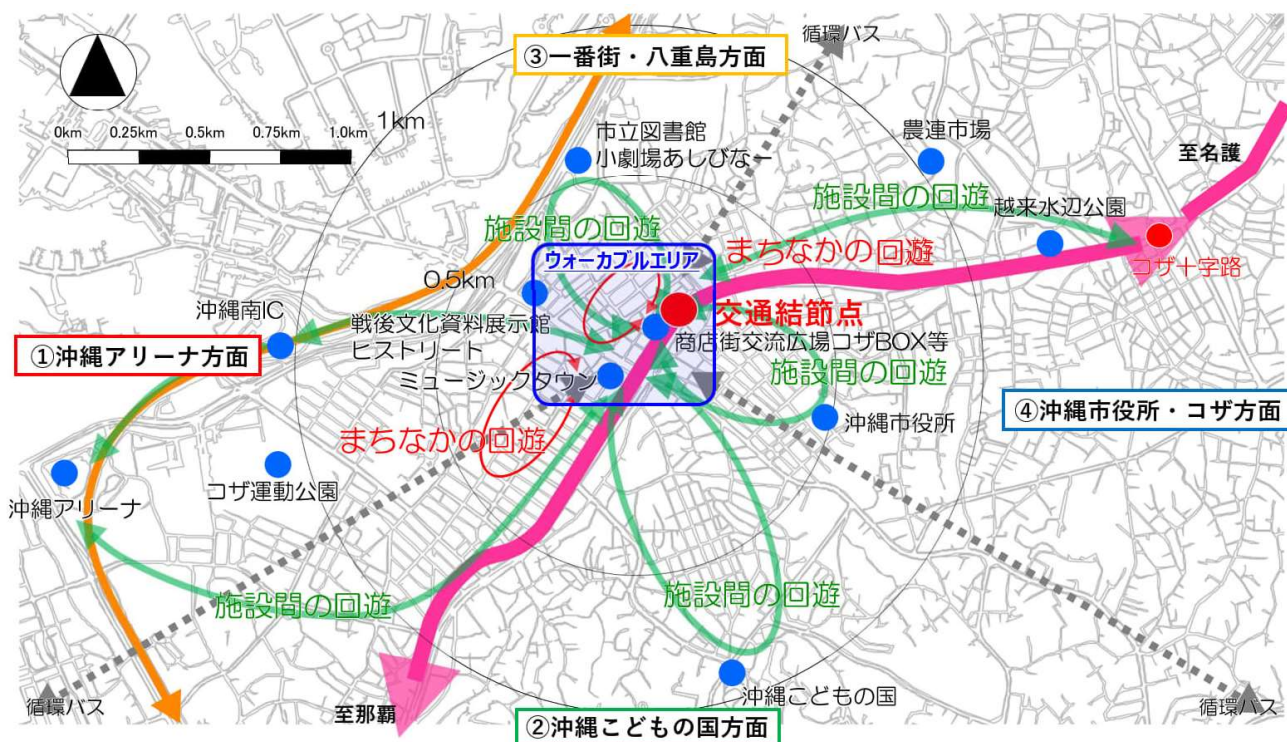
取組の詳細は、
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。

沖縄市役所
胡屋・中央地区バスタプロジェクト



2.対象区域

- 対象エリア(交通拠点)は、交通結節点を中心に、沖縄アリーナからコザ十字路を含む4方面を基本とする面的な範囲である。



3. 基本計画の方針

沖縄市交通拠点 整備基本構想

K
O
Z
A
の
み
ん
な
で
つ
く
る
活
力
に
満
ち
た
ま
ち

【方針①】
だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

【方針②】
まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

【方針③】
まちなかの結びつきを強くする場づくり

【方針④】
KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

【方針⑤】
より安全で安心なまちづくり

○コザらしさを育む ～地域の魅力向上～

- ・ 長く滞在してもらえる安心感のある場所の創出
- ・ コザが有するユニークな歴史・文化・雰囲気を感じて訪れてもらえる場所の創出
- ・ 住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- ・ 様々な人のための交流、憩いの場の創出
- ・ 地域イベントにも活用できる賑わい創出のための溜まり空間の創出
- ・ 商店街と連続する徒歩空間を活用した魅力の創出
- ・ 誰もを受け入れ歓迎する空間（ゲート等）の演出

○繋がる往来 ～都市間のアクセス機能の向上～

- ・ 那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- ・ 路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- ・ まちづくりと連携した駐車場施策の促進
- ・ 行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイン、インフォメーションセンター等の整備

○まちを巡る ～地域内の回遊性向上～

- ・ 市内各所を巡る、バス（路線、循環、シトル）、タクシー、その他交通手段（シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物等）との連携
- ・ 歩いて巡る、ウォークアブル空間等の創出
- ・ 全ての人にとって居心地の良い空間となるバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

○まちの顔 ～沖縄市が持つ個性的な空間づくり～

- ・ 国際色豊かで地域と調和した街並みの形成
- ・ KOZA（戦前・戦後の記憶、琉米文化等）が感じられる空間の形成
- ・ 沖縄市独自の景観を活かした玄関口にふさわしい空間の形成（国道330号、パークアベニュー、ゲート通り等）

○安心を紡ぐ ～防犯・防災機能の向上～

- ・ 防災情報（警報、注意報等）や交通機関の運行情報等の情報発信
- ・ 帰宅困難者の避難場所として、交通拠点及び周辺公共空間の活用
- ・ 安全・安心なまちの創出（防犯・交通安全）
- ・ 沖縄サントリーアリーナとの連携 ・Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保
- ・ 無電柱化 ・公共空間等を活用した防災訓練

デザインコード

デザインコード1:

まちの骨格を生かした空間

沖縄市における商業景観軸、重点地区に設定されているコザゲート通り地区・くすの木通り地区が交わる重要なエリアであることを踏まえた空間の構築

デザインコード2:

小さな風景がつくるコザらしさ

地域に点在する様々な街の機能、特徴を結び、地域の生活や歴史や文化を感じることができ空間の構築

デザインコード3:

生き生きとしたまちの表情に溶け込ませる

商店街と一体となった新たな拠点の構築により、地域と調和した徒歩を中心とした人間スケールの空間の構築

デザインコード4:

多様性が絡み合う自由な空気感

地域の活動などの受け皿となるとともに、様々な人が憩い、行むことができる居場所となる空間の構築

4. 施策と取組み案の検討

- ・ 交通結節点を中心とし、沖縄アリーナからコザ十字路を含む4方面に分け施策と取組案を体系的に整理した。

1. 沖縄アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性(商業・文化・歴史)を活かしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

3. 一番街・八重島方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出



2. 沖縄こどもの国方面

1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

4. 沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

5. 基本計画を実現するための共通の考え方(デザインコード)

○デザインコードとは

交通拠点エリア全体について、空間の整え方や使いこなしの考え方を言語化した指針である。

デザインコード1:コザまちまーいを育む空間

・都市の骨格を受け止め、人の流れや気配が自然に交わる場として、隣接する空間を「にじみあう場」として結び、広がる空と緑の中に、路地(すーじぐわー)や軒下(あまはじ)等の半屋外の間領域、小さな溜まりが連鎖する居心地のよいまちまーい(まち歩き)を創り出す拠点を描く。



デザインコード2:生き生きとしたコザの表情に溶け込ませる

・中央パークアベニューからゲート通りまでをつなぐ連続的な歩行環境を整え、アーケード等の半屋外歩行空間や沿道の軒下空間を活かしながら、都市を横断する動線を自然に受け止め、周辺の街路や商店街とにじみ合う豊かな歩き空間をつくる。



デザインコード3:小さな体験が紡ぐコザ・ライブスケープ

・点在する文化や歴史の拠点を大切に、琉米文化が織りなす小さな風景や日々の営みを重ね合わせて「コザらしさ」を紡ぎ出す拠点とする。

・固定的な施設整備にとどまらず、営みが重なり育つ過程そのものを大切にする。



デザインコード4:チャンプルー文化を許容する寛容な空気感

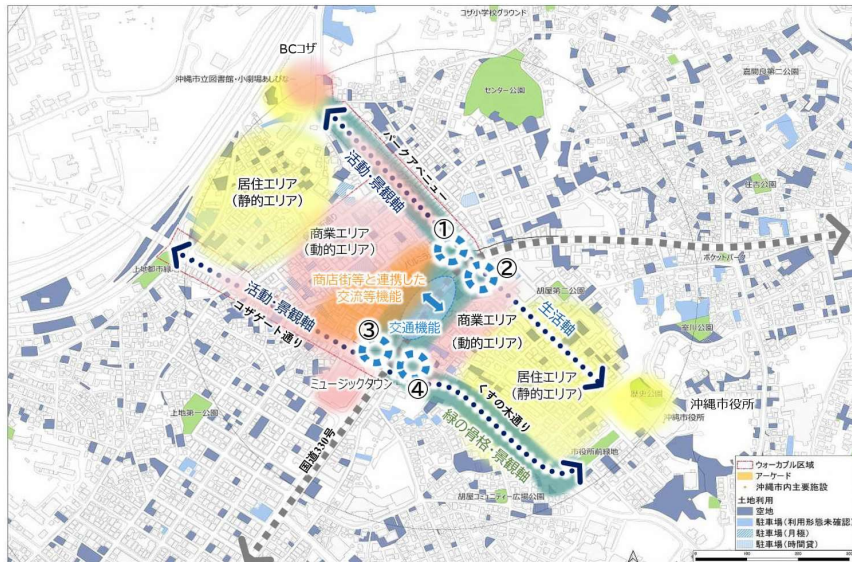
・エイサーやストリートスポーツ、日常の営みが交わり、静けさとにぎわいが同居する、寛容で受け皿の広いコザ特有の空気感を育む。

・交通結節点を都市の広場として捉え、移動の効率性と文化的厚みが自然に重なり合う場として、多様な活動や人の滞留を受け止め、まちの重心となる空間を形成する。



6. ウォーカブルエリアの方向性

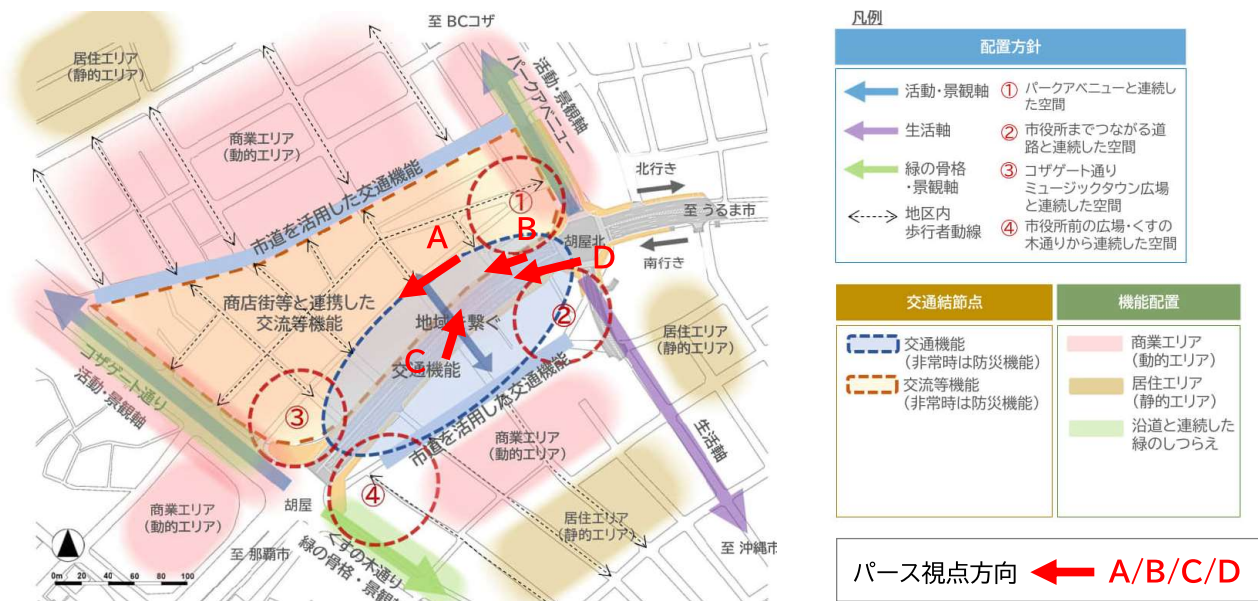
- 交通結節点を中心とした300～500m程度のエリアを対象範囲とし、周辺の施設立地状況を踏まえてウォーカブルを設定した。
- 周辺の公園や街路空間等との関係性を考慮したパブリックスペースの機能・配置方針を定め、ひと中心の「居心地が良く歩きたくなる」ウォーカブルエリアの方向性を整理した。



図：パブリックスペースの機能・配置方針

7. 整備イメージの検討

- パブリックスペース(ウォーカブルエリア)配置方針を踏まえ、活動・景観軸、生活軸、緑の骨格・計画軸との接続空間を創出し、結節点と一体となった空間とした。
- 隣接する商店街等と連携して交流機能の強化するとともに、既存道路を活用した交通機能を配置することで、商店街を回遊する歩行者の増加を図る。



8. イメージパースの作成

A 交通結節点と連続した商店街のイメージ



凡例: DC1 デザインコード1
DC2 デザインコード2
DC3 デザインコード3
DC4 デザインコード4

・交通結節点と商店街が段差なく連続し、バスの乗降や待合の場がそのまま歩きへとつながる空間を描いている。上屋や軒下(あまはじ)的な半屋外の中間領域(DC1)や小さな居場所(DC3)が重なり、移動と滞在が自然ににじみ合う(DC2)、広場的な性格。

B 商店街と広場が一体で賑わうイメージ



・商店街と広場がゆるやかに連続し、イベントや日常の滞在が重なり合う場を描いている(DC4)。交通結節点を起点に、にぎわいと緑が重なり合い(DC1・DC2)、小さな居場所が連鎖する(DC3)ことで、静と動が共存するコザらしい広場空間を示している。

C デッキ上から商店街と広場を眺めるイメージ



・デッキ上から商店街と広場を俯瞰し、結節点を中心に各軸が重なり合う都市構造(DC1・DC2)を示している。車いすやベビーカー、スーツケースを伴う移動も含め、誰もが円滑に往来できるユニバーサルな動線(DC1)の上に、交通と滞在の場が重なり(DC4)、都市の重心が形づくられていく様子を描いている(DC2)。

D 国道330号をデッキで接続した広場・商店街と一体整備したイメージ



・国道330号による南北の分断をデッキで接続し、広場・商店街と一体となった空間構造を描いている(DC2)。

・視線の抜けと空の広がり(DC1)を確保することで、通過する風景から立ち寄りたくなる風景へと転じさせ(DC3)、都市の両側の営みを重ね合わせながら、移動の場が交流の場へと広がる中部地域の新たな拠点像(DC4)を示している。

※イメージであり、決定されたものではありません。

9. 機運醸成及び合意形成手法の検討・実施

- 交通結節点やその周辺エリアにおける交流空間の検討にあたり、胡屋・中央地区のまちづくりの取り組み説明や専門家(広場ニスト:山下裕子氏)による「昼間の顔となる広場づくり」の講演など、将来的に広場の使い手や取組の主体となる方々と検討する場として、まちあるき・講演会・ワークショップを実施した。



10. 連携施策の検討

○交流機能の検討

残地を活用した広場の検討／実証実験の実施

- 胡屋北交差点改良事業の進捗に伴う空地などを活用し、広場の在り方の実証実験をおこなった。
 - 休日昼間の賑わい創出などの観点から、2ケース(休日と休日のイベント時)の実証実験とした。
- アクセス性・回遊性向上などの観点から、「空地を活用した広場の実験」「まちなか交流拠点」、及び周辺を巡るスタンプラリーを併せて実施した。



空地の活用



空地の活用



チラシ



スタンプラリー台紙/A4



スタンプラリー台紙/A4
(空き地を使ってみたいですか?)

○まちなか交流拠点の検討

大学との連携

・沖縄市と琉球大学(国立大学法人琉球大学)は2018年に包括連携協定を締結しており、地域社会の発展や人材育成を目的とした包括的な協力枠組として、まちづくりの取組みを実施した。

大学との連携：まちづくりをテーマとした特別講義

「沖縄市胡屋中央地区に求められる広場空間」について、皆さんの声をお聞かせください。

- ◆ 沖縄市の胡屋・中央地区では、多様な交通手段が集まる交通拠点（通称：バスタ）の整備に向けて、国・沖縄県・沖縄市が連携して検討を進めています。
- ◆ また、バスタの整備に合わせて、周辺の広場空間も一体的に整備し、地域住民や来訪者が交流できるような機能の導入も検討されています。
- ◆ この広場空間にどのような交流機能を持たせるかについて、**学生ならではの視点からアイデアやコンセプト案を考えてみましょう。**
- ◆ 上記以外の内容で、まちなかや交通拠点にこういう機能（施設）があったらいい！というアイデアがあれば、併せてお聞かせください。
- ◆ これからの社会を担っていく皆さんの貴重な意見を、今後の施策に反映できればと考えていますので、ご協力をお願いします。

琉球大学特別講義

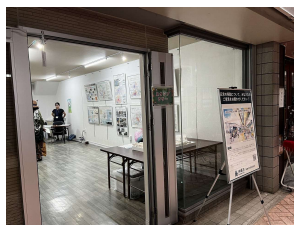
大学生によるアイデアをまちづくりへ反映した

・座学／まちあるき／現地調査／ワークショップ



まちなか交流拠点の実証実験

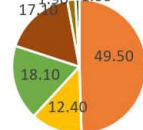
- ・まちなか交流拠点の必要性を検討した。
- ・バスタ整備や周辺のまちづくりに関する情報発信を検討した。
- ・まちなか交流拠点へ、ひとが気軽に立ち寄り、人と人との繋がりとなる必要な空間を検討した。



来訪者へのアンケート等により、まちなか拠点の必要性、情報発信内容、まちなか拠点をつくるために必要な空間の課題を検証した。

■まちなか交流拠点に気軽に立ち寄るなら、どのような施設が理想ですか

49% | カフェのような
リラックススペース
18% | 市民活動スペース



- 1 カフェのようなリラックススペース
- 2 読書や学習スペース
- 3 市民活動スペース
- 4 アートにふれる空間
- 5 その他

沖縄市青年団協議会との連携

- ・官民連携の取組みとして、市主催のフォーラムとの連携を図った。



沖縄市青年フォーラム2026

・基本構想の説明／市内散策／しゃべり場／グループ発表



11. 検討委員会、デザイン検討部会の開催

○検討委員会の開催

- ・基本計画を多角的な視点から精査・ブラッシュアップのため、有識者等の意見を伺った。



第3回(R7.10.2)
第4回(R8.1.27)
第5回(R8.3.4)

○デザイン検討部会の開催

- ・交通結節点を核とした交通拠点エリア全体について、空間の整え方や使いこなしの考え方を言語化した指針(デザインコード)を検討した。



第2回(R7.10.14)
第3回(R8.2.18)

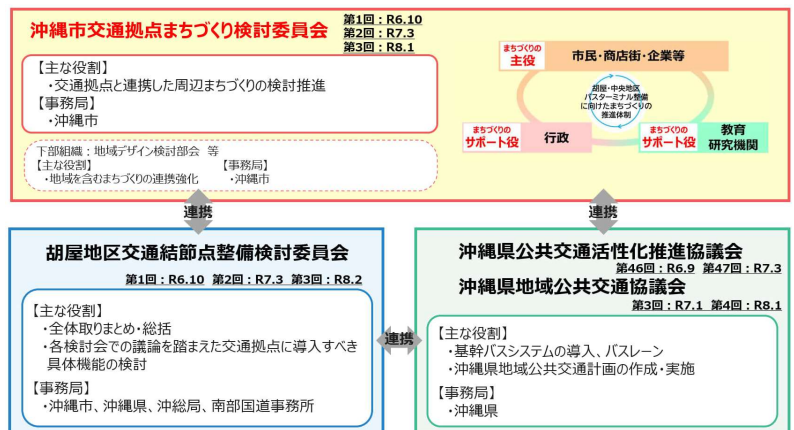
12. 今後に向けて

- ・本計画を実効性のある取組として推進するため、市民・行政・交通事業者・研究機関・企業等が、それぞれの立場と強みを生かして連携し、段階的に進める。
- ・交通結節点の機能を強化し、広域拠点として位置づけるため、交通拠点における回遊性・滞留・安全性などの向上を一体的に進めるとともに、関係者間で役割分担を明確にする。
- ・引き続き、胡屋地区交通結節点整備検討委員会(交通結節点)、沖縄県公共交通活性化推進協議会(基幹バス)との連携を図る。

表：取組案ごとの役割分担(案)

施策	取組み案	国	県	市	地域 商店街	交通 事業者	民間	大学
a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり	○	○	○	○		○	
b歩行者を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○ベンチ等小休憩場所の整備	○	○	○	○			
cアクセス機能の向上	○シャトルバス乗り場整備 ○タクシー乗り場整備 ○シェアサイクル等ポート整備 ○バス停等の整備 ○モビリティ・ハブの設置	○	○	○	○	○	○	
d安心して暮らせる場所の創出	○土地区画整理事業 ○生活道路対策			○	○			
e誰もが楽しめる居心地のいい環境の創出	○乗り継ぎ利便性向上、待合環境の充実化 ○商店街と拠点連携による賑わいの創出(周辺エリアの情報発信等) ○まちなか交流拠点の創出	○	○	○	○	○		○
fまちの個性を生かしたにぎわいの創出	○宿泊施設の誘致 ○商店街への誘客や交流促進 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○昼の賑わい創出(販売店(日用品)飲食店(カフェ等)) ○駐車場の整備、更新、連携 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり	○	○	○	○		○	○
gスポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出	○スポーツイベント等 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり			○	○		○	
h沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出	○県外・県内からの観光客誘致 ○日本ユニークな施設への整備拡充 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり			○				
i防災機能を向上	○防災力向上の取組	○	○	○	○	○	○	
jウォーカブル	○コゴザの音楽や歴史・文化の継承 ○通りの特色を活かした景観づくり ○昔と今を融合した商店街等の形成 ○花やみどりにあふれたひと中心の通り ○人々が集い・滞留し、居場所となる空間づくり ○分かりやすく魅力ある案内表示等の整備 ○交通結節点を拠点にした回遊性の促進	○	○	○	○			○

※役割分担は各施策を進める中で、取組案毎に今後詳細に検討する。



【問い合わせ先】 沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通課 TEL:098-989-9135